

ぶどうの木



発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2024年 6月23日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田 3-37-7
TEL : 03-3414-5772
FAX : 03-3414-5778

第252号 2024年 7月号



『人にももらいたくない』

牧師 広田叔弘

人にもしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。自分を愛してくる人を愛したところで、あなたにどんな恵みがあるうか。

ルカによる福音書 6章31〜32節

中学生の時でした。身内の法事がありました。親戚たちが集まります。会食の時に私の前の席に従姉がいました。3歳の男の子です。「喉が渴いた」と言いました。そこで、コップにジュースを注いであげました。すると従姉は、困ったような、迷惑そうな顔をします。手を出さないのです。隣にいた私の母が笑いながら言いました。「小さい子は半分ぐらいでいいのよ」そう言っただけのコップにジュースを半分注ぎます。従姉はそれを両手に持ってゴクンゴクンと飲みました。私は「ふーん。そんなもんか」と思いました。

「人にももらいたいことを人にもする」言葉は簡単。もったもたないことです。しかし、難しいことかもしれません。コップの8割を満たすジュースは中学生にとっては当たり前です。しかし3歳の従姉にとっては、大ジョッキに注がれたジュースに見えたのかもしれない。

求められているのは他者を理解することでしよう。必要なのは、「洞察」ではなく「対話」なのだと思えます。

人生経験に裏打ちされた洞察力は重要なものです。温かい洞察は包容力となって人に安心を与えます。同時に洞察力は個人によってさまざまです。程度の違いがあるでしょう。誤作動を起こすこともあります。人は話してみないと分かりません。対話を重ねる中で理解と修正を繰り返します。この営みを通してその人が見ている世界を少しでも理解することが出来るのではないかと思います。『善意の押し売り』ではなく、その人にとってのしってもらいたいことを行って、互いに幸いになることが出来るのではないかと思います。

6月の末に岩手県の千厩教会を訪ねます。牧師の柳沼赦羊子先生とは、かつて梅ヶ丘教会で信仰生活を共にしました。今回の計画については春先から準備を進めています。そして千厩へ行ったら、教会の皆さんと対話したいと思っています。それぞれの教会には、課題があり、険しさがありません。そして試練を恵みに変える主が共におられます。対話を重ねて互いに知り合い、それぞれの課題と希望を共有したいと願っています。理解を深める中で思いと行いを通わせ合い、主の恵みを共にしたいのです。皆さん、祈ってください。